令和５年度　授業改善推進プラン

東久留米市立第三小学校　第5学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	ワークテストの結果では、漢字や言葉の学習については、概ね70％の正答率である。しかし、既習の漢字や文法など定着しておくべき知識・技能に課題が見られるとともに、ノート記述の際に漢字を適切に使うことにも課題が見られる。また、思考・判断・表現は80％を上回ってはいるが、自分の思いや意見を書いたり話したりして表現することに課題が見られる。	日々のノート記述やドリルなどの副教材の取り組みを丁寧に見取っていきながら、繰り返し練習をするために漢字や文法のミニテストを実施する。目標として漢字や言葉のワークテストで80％の正答率を目指す。また、自分の考えをノートに書く習慣を身に付けさせるために、書く時間を十分に確保し、授業後のノートやワークシートの記述で、期待するＢ評価基準の児童を70％以上にする。
算数	１学期に行った東京都ベーシックドリルの結果から、商が小数になる場合の正答率に課題が見られる。また、直方体の辺の関係の理解の正答率が45％であった。 昨年度３学期に行った市学力調査では、概数と四捨五入の得点率が全国平均より15.1ﾎﾟｲﾝﾄ低く課題が見られた。また、図形領域の小問全て全国平均より低く、領域全体で8.8ﾎﾟｲﾝﾄ全国平均より低く課題が見られた。	概数の処理や計算のやり方を安易に暗記するのではなく、意味を理解すること、大体の数を見積もることで小数点の位置を推測するなどの授業を展開する。目標として3学期に東京ベーシックドリルで正答率を15ポイント向上させる。図形領域では、実際に実物と見取り図等を見比べる経験を多く行う中で空間概念を醸成することでワークテストで70％の正答率を目標とする。
理科	ワークテストの結果では、知識・技能では、概ね80％の正答率である。しかし、授業中は条件制御での実験計画を立てることに課題が見られる児童は５割である。 また、観察・実験後の考察を根拠を入れて書けない児童が５割ほどいる。	何となく示された手順で実験をこなすのではなく、問題解決のためにはどうしたらよいかについて考える授業を展開していく。目標として75％以上の児童がおおよその実験計画を立てられるようにする。考察は、問題を確認し、何を調べるための実験かを思い出させることで、実験結果を根拠にして考察できるようにする。80％の児童がノートに書けるようにする。
社会	ワークテストの結果では、知識・技能は、概ね75％の正答率である。しかし、グラフや写真等の読解をする際にもっている知識を十分生かすことに課題が見られる。たとえば、思考するための根拠としてグラフ等の資料と関連づけて説明することの経験が十分でないことが予想される。	グラフや写真等の情報から気が付いた事実と情報から考えられることから課題を設定する場面を単元や小単元の導入で80％以上設定することでグラフ等の読解力の育成を行う。また、課題解決の過程で根拠となる事実を示すように指導することで、思考・判断のワークテストでの正答率の目標値を70％以上とする。